

# 第35回・全国きき酒選手権大会



個人の部・日本一は秋田県・工藤功一さん  
 団体の部は千葉県（中山・小堀ペア）が制覇



◀ 個人の部で新チャンピオンの座に着いた工藤さん  
 ▲ 団体の部を制した千葉県チーム（左が中山さん、右が小堀さん）

2015年度きき酒チャンピオン決定！日本酒業界の名物イベント「第35回 全国きき酒選手権大会」(主催＝日本酒造組合中央会)が10月30日の午後、東京千代田区のホテルニューオータニで開催され、並み居る強豪を制して、<個人の部>で秋田県代表の工藤功一さん、<団体の部>は中山敏明さんと小堀泰志さんの千葉県チームが、みごと新チャンピオンの座を獲得しました。



日本酒造組合中央会の篠原会長(右から2人目)と、全国農業協同組合連合会の栗原原材料課長(右端)、日本酒マスコット・おちよこくん(左端)から祝福を受ける優勝者の皆さん

強豪ぞろい



引き締まった表情

メモを取る姿も



カッコいい

## きき酒ジャパン・カップ。36都道府県の代表72人が激戦



佐浦需要開発委員長

### ● 特別枠・大学対抗の部に 13組 26名が参戦

地区予選を勝ち抜いた各県の代表が一堂に会して、年間統一王座を競い合う「全国きき酒選手権大会」。きき酒名人たちの技とプライドが火花を散らす、文字どおり「きき酒のジャパンカップ」です。2015年のチャンピオンを決定する今大会には、36都道府県の代表72人(男性55、女性17)がエントリーしたほか、特別枠として設けられた大学対抗の部にも13組26名の大学生が参戦。熾烈な闘いを繰り広げました。

開会挨拶を行った中央会の佐浦需要開発委員長は、「長い歴史のある大会に、今回も20歳から70歳まで幅広い層の方々が出場されている。どんな闘いになるか、大いに各人のきき酒能力を競ってほしいが、この会は、同時に全国から集まった日本酒愛好家の出会いの場でもある。この機会に、酒縁による懇親を深め、その思いを周りの方々に伝えて、日本酒ファンを育ててほしい」と述べました。



王者の金メダル



◀ 前回大会・団体の部で優勝した滋賀県チーム(城田さん・高柴さん)が優勝杯を返還。



◀ 選手宣誓は、前回準優勝した大分県チームの大竹さん(右)と河野さん。「私たち選手一同は、鍛錬により磨かれた官能で日本酒をきき分け、精一杯きき酒することを誓います」

▶ 審査委員長は(独法)酒類総合研究所の後藤奈美理事



▲ 次代の酒サポーター。大学対抗部の参加者26名



▲ 競技委員長を務めた中央会の濱田理事が競技方法を説明。

▶ 本選に先立って、まずは20分の筆記試験。これが難問ぞろい。



## 7種類の日本酒をマッチング。制限時間15分の真剣勝負



### ●「パニックだった」「きき酒って面白い」競技を終えて、感想いろいろ

筆記試験が終わって、いよいよ本選のスタートです。きき酒競技の方法は、例年どおり7種類の日本酒（純米吟醸酒、大吟醸酒、純米酒、本醸造酒、生酒、低アル酒、普通酒）のマッチング法で、4組に分かれた選手たちは、各組15分の制限時間で、緊迫感みなぎる真剣勝負を繰り広げました。

競技を終えて控室に戻った参加者に話を聞くと「県大会は5種類のマッチング。2つ増えただけでパニックっちゃいました」「初参加です。居酒屋さんで練習してきました。結構いい線いったかも」と、手応えは人それぞれの様子。大学生対抗の部に参加した女子大生は「利き酒師の資格を持ってんですけど、後半の7分で混乱しちゃって。でも、きき酒って面白いと思いました」と、ホッとした様子で感想を語っていました。



静寂と緊迫。きき酒自慢のプライドを掛け、五感を研ぎ澄まして真剣勝負



▲ 最終決着はプレイオフで、11人が参加しました。



▲ 控室では、プレイオフの時間を利用して、国税庁鑑定企画官室の宇都宮仁氏がきき酒のポイントなどについてミニ・セミナー。「きき酒上達のコツは酒の特徴を自分の言葉でメモすることです」

## リラックスのひと時。日本酒と料理を囲んで懇親パーティ



### ● 地元の飲み友達とうれしさを分かち合いたい(個人の部優勝の工藤さん)

すべての競技が終わったあとは、日本酒とおいしい料理を囲んで、懇談のひと時。まず、中央会の篠原会長の発声に合わせて参加者全員「日本酒で乾杯！」の杯を挙げた後、いよいよ、お待ちかねの成績発表です。会場からは、各部門の入賞者の名前が読み上げられるたび、歓声と拍手が湧き上がり、篠原会長から賞状や記念品(日本酒と全農提供のお米券など)を手渡された入賞者はいずれも満面の笑顔。お互いの健闘を称え合う参加者や、入賞者を囲んで記念撮影する関係者のグループなど、会場はノースイドのリラックスした雰囲気でも盛り上がっていました。(優勝3氏のコメントは下に)



篠原会長



**工藤さん** びっくりしました。練習はしてきたけど、難しかったですね。香りも味も捉えどころがなく、さすが全国大会です。地元の飲み友達と一緒に、このうれしさを分かち合いたい。



**中山さん** 千葉にはおいしい酒がいっぱいあるので、利き酒のレベルも高いですよ。私は県大会で3位だったけど、2位の人の欠場で繰上げになったんです。実力者はまだまだいます。



**小堀さん** 夢のようです。とにかく日本酒が好きで、毎日飲んでいますけど、まさか優勝できるとは思いませんでした。それだけにうれしい。家族や地元の仲間も喜んでくれると思います。

## ★ 上位入賞者の方々 ★



個人の部・準優勝  
望月麻衣さん(愛知県)



個人の部・第3位  
越智栄一さん(愛媛県)



団体の部・準優勝 宮城県  
勝又忠則さん(右)と清水達史さん



団体の部・第3位 石川県  
北村浩太郎さん(右)と下木雄介さん

ノースサイドの風景



第35回 全国きき酒選手権大会



〈個人の部〉第10位から第4位入賞の皆さん

後藤審査委員長の講評

「制限時間 15 分と厳しい条件での競技でしたが、その中で皆さんよく健闘されました。正解した人は、確かな技術を持っている方。自信を持っていいと思います」



きき酒



こちらは〈大学対抗の部〉入賞チーム。左から(2人ずつ)準優勝・神戸大学、優勝・成城大学、第3位・日本大学



閉会の挨拶は需要開発委員会の七田副委員長

